



にん のう きょう 椋本宿の仁王経塔

伊勢別街道は、東海道の関宿東追分(現在の亀山市関町木崎)から、芸濃町楠原や椋本、高野尾町、大里窪田町、一身田町を通り、志登茂川に掛かる江戸橋の西詰(上浜町三丁目)で伊勢街道(参宮街道)と合流するまでの全長約18kmの街道です。江戸時代に「脇往還」の一つとして整備され、京都方面からの参宮客が盛んに往来していました。

このうち芸濃町椋本は、宿場町として栄え、街道沿いには問屋場、旅籠、茶店などが数多く並んでいました。東西の端には「仁王般若波羅蜜経」の略称である「仁王経」と彫られた自然石の碑が1基ずつ建てられ、現在も残されています。文字が深く彫り込まれている西端の碑は「上の塔」と呼ばれ、四角い輪郭の中に文字が

浅く刻まれている東端の碑は「下の塔」と呼ばれていて、それぞれの碑の下には経文の文字を一字ずつ写した大量の小石が埋められていると言われています。

碑の裏面にある銘文から、文化2(1805)年に建立されたことが分かり、銘文には村内安全、五穀成就などに続いて疫病の流行が永く治除するようにと刻まれていることから、東西の出入口に建つ2つの碑は、町への疫病の流入を防ぐことが目的だったと考えられています。

この他、国登録有形文化財の角屋旅館や、道標・里程標など当時の雰囲気がよく残っていますので、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



上の塔



下の塔



現在の町並み

